

平成 21 年 8 月 21 日  
西日本高速道路株式会社

## 民営化 3 年半を振り返って

西日本高速道路株式会社は、平成17年10月1日に旧日本道路公団から分割して設立されてから3年半を経過しました。この間、24時間365日安全・安心で快適な道路空間を提供することを使命とし、民営化のメリットを生かした経営に努めてまいりました。

「地域に密着した事業、サービスの提供」、「高速道路3事業(管理・建設・サービスエリア)の一体的、効率的な実施」、「グループ経営、連結会計で経営の効率性・透明性の向上」を柱に、「お客さま満足を高め、地域の発展に寄与し、社会に貢献する企業グループ」となることをめざし、中期経営計画で目標を明確にし、毎年度「何を」「いつまでに」「誰のために」するのか 5W1H を定め実施しております。

### 1. 民営化の目的

- ① 道路関係四公団合計で40兆円(民営化時 NEXCO3社計 29 兆円)の有利子債務を確実に返済
- ② 有料道路として整備すべき区間について、早期に、少ない国民負担で建設
- ③ 民間のノウハウ発揮により多様で弾力的な料金設定、サービスエリア等で多様なサービスを提供

### 2. 主な取り組みと成果

#### (1)「安全・安心・快適」な高速道路空間の提供

- ◆ 社会の変化(高齢化、老朽化、異常気象など)を捉えた「100%の安全・安心」確保に向け、災害・事故発生後の対処的保全から「予防保全」への取り組みへ重点をシフト

- ・ 逆走対策・増加する高齢者ドライバーによる逆走事故防止のため、日産自動車との共同研究によるカーナビ警告装置等開発中



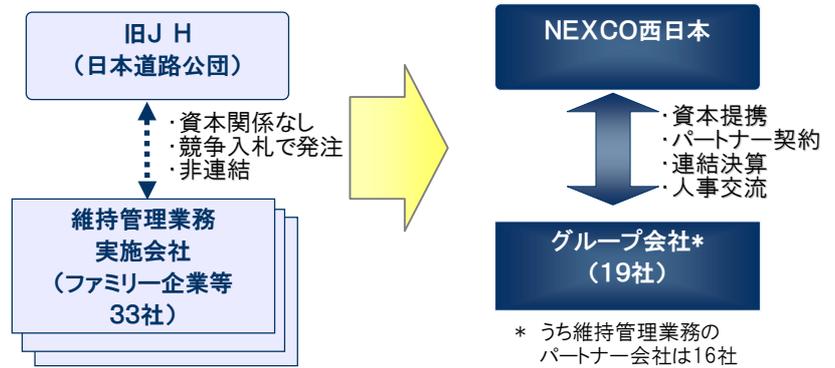
《カーナビ上で警告》

- ・ 老朽化対策・進行する橋梁の老朽化に対し、コンクリートはく落防止の緊急対策とともにライフサイクルコスト最小化の観点から抜本的な高耐久化対策を推進
- ・ 異常気象対策・西日本特有の台風やゲリラ豪雨等による災害に備え、GPS 等各種観測機器を利用した発生予測システムを開発中

◆ コストの削減とサービスレベルの確保

- ・ 維持管理業務実施にあたり、旧ファミリー企業(33社)を地域・業務別に統合・再編合理化し、スリム化してグループ会社19社(うち維持管理業務を実施するパートナー会社16社)を設立、H14年度比コスト3割削減のもとでサービスレベルを確保

【維持管理業務実施体制の再構築】



- ・ NEXCO 西日本本体とパートナー会社間で協働体制による業務の効率化を促進するため人事交流を推進(H21.7末現在116人)
- ・ なお、旧JH維持管理業務実施会社は「高速道路関連社会貢献協議会」を設立、約200億円の資金を拠出して高速道路利用者に還元
- ・ H20年度の管理コストは計画に対し6%削減(計画1,659億円→実績1,557億円)

◆ 各種 ETC 割引・企画割引の実施

- ・ ETC 時間帯割引(通勤割引、早朝夜間割引、深夜割引、平日夜間割引、平日昼間割引、休日特別割引)、ETC マイレージ割引
- ・ 周遊型割引・大手旅行代理店とのタイアップによるドライブ旅行商品

◆ お客様のご不便の解消と満足度の向上への取り組み

- ・ 快適なトイレ空間の創造(リニューアル33箇所)・暖房・洗浄便座、オストメイト対応トイレ、パウダーコーナー等でデパート並みのトイレを目指す
- ・ 24時間コンビニ(33箇所)、シャワーステーション(3箇所)、ドッグラン(24箇所)等



<快適なトイレ空間>



<シャワーステーション>



<ドッグラン>

◆ タイムリーで確実な情報提供

- ・ お客さまセンター・・・ H20年度年間 63 万 4 千件対応(24 時間 365 日フリーコール)
- ・ アイハイウェイ・・・ 携帯電話やPC へ24時間リアルタイムに交通情報を提供(利用者数;日最大 5.6 万人, 累計 195 万人(H21.8.16 現在))



<交通情報提供サイト・アイハイウェイ>

◆ 関連事業収益を活用したお客さま還元、社会貢献の取り組み

- ・ お客様感謝 DAY・・・毎月 1 回(第一日曜)、SAPA の商品 2 割引(H20 年度約 11 億円)
- ・ 西日本高速道路エリア・パートナーズ倶楽部・・・SAPA のテナント 55 社とともに年間約 1.8 億円(H20 年度)を拠出し社会貢献を実施(産婦人科医をめざす学生の支援、アフリカ・スーダンのマラリア患者等診療活動 NPO 法人「ロシナンテス」への資金援助等)



<日本産婦人科医会への寄附>



撮影:内藤 順司

<海外医療活動(ロシナンテス)>

- ・ 道路事業への還元・・・洗浄便座等サービス機能向上のための工事に累計約 10 億円の関連事業収益を活用



<暖房・洗浄便座>



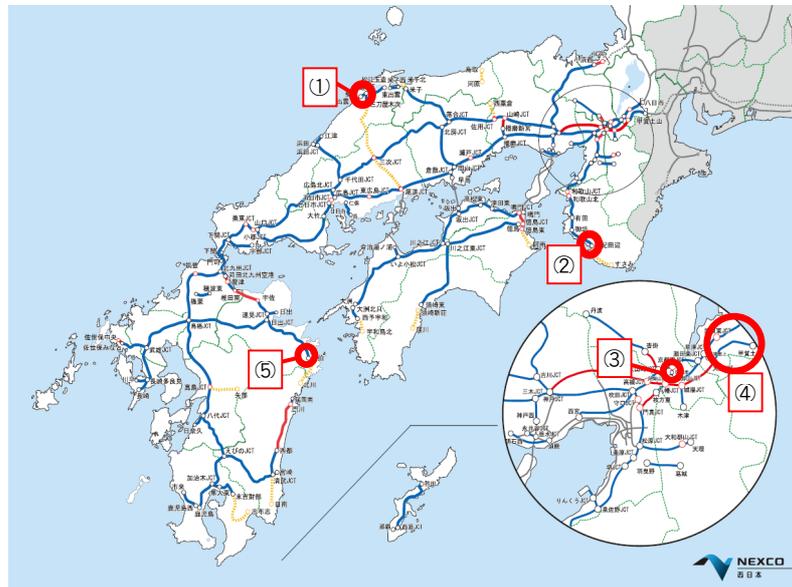
<パウダーコーナー>

## (2) 高速ネットワークの効率的・早期の整備

- ◆ 建設コスト17%削減(約 2,400 億円→約 2,000 億円(機構への引渡額))
- ◆ 早期開通による収入増を活用し、3 区間で概ね 50%の企画割引(早期開通割引)を実施

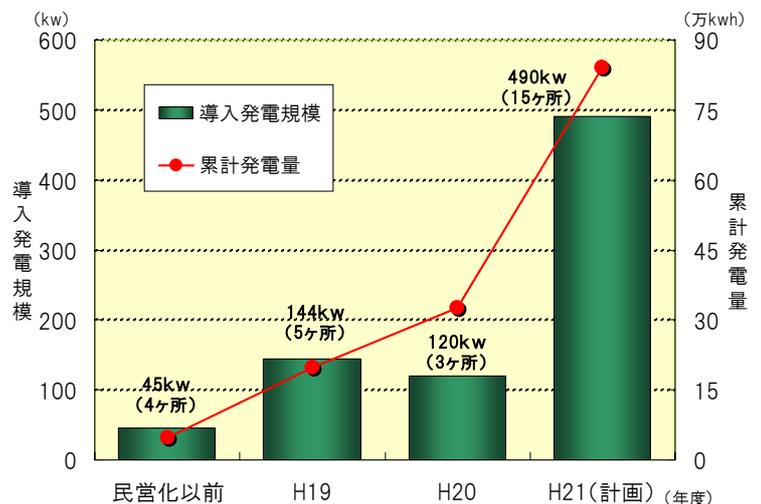
NEXCO 西日本の開通実績(H18 年度以降)

	道路名	区間	延長 (km)	供用実績	短縮日数	備考
1	山陰自動車道	穴道JCT～斐川IC	5	H18.11.25	1ヶ月	-
2	阪和自動車道	みなべ～南紀田辺	6	H19.11.11	4.5ヶ月	早期開通割引実施
3	第二京阪道路	阪神高速接続部～巨椋池IC	1	H20.1.19	0ヶ月	-
4	新名神高速道路	甲賀土山IC～大津(草津田上IC)	29	H20.2.23	13ヶ月	早期開通割引実施
5	東九州自動車道	津久見IC～佐伯IC	13	H20.6.28	3ヶ月	早期開通割引実施
	計		53			



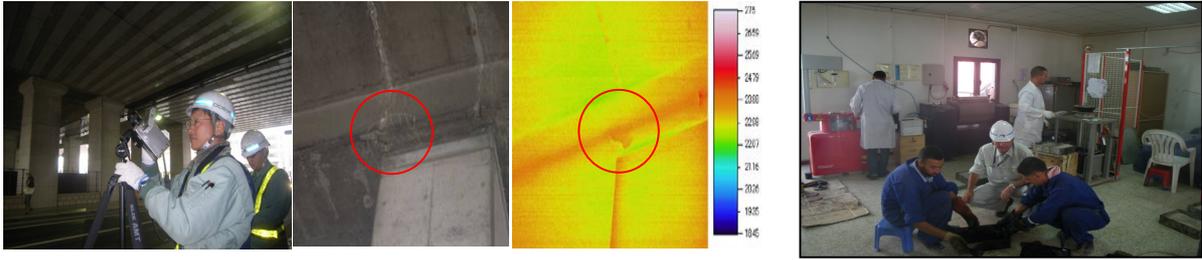
## (3) 環境を重視した事業運営

- ◆ ISO14001 認証取得
- ◆ 太陽光発電の導入・H21 年度末までに 23 箇所



#### (4)新たな事業分野へのチャレンジ

- ◆ 海外事業への取り組み・赤外線カメラ点検技術等の海外への販売、海外での点検事業の実施、アフリカでの道路技術者研修プロジェクト(社会貢献)等の実施に向けて活動中



<赤外線カメラを用いた点検>

<アルジェリア高速道路プロジェクト>

- ◆ 自治体からの管理委託・高速道路管理のノウハウ・資機材を活用した効率的なサービスを提供

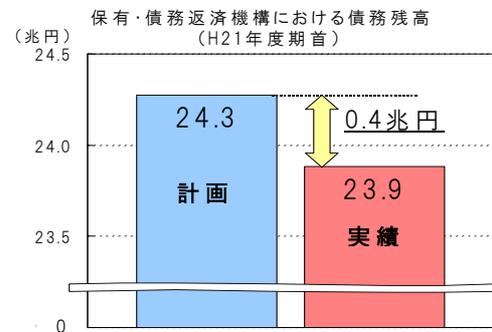
#### (5)着実な賃借料の支払い

- ◆ NEXCO3社で約5兆円の賃借料を機構に支払い(民営化後3年半)
- ◆ NEXCO3社で726億円の法人税を納付  
(民営化直前の旧 JH には年間3千億円の国費(出資金)投入⇒3年半で約1兆円超の国費節減効果)

民営化後3年半の経営状況

	NEXCO東日本	NEXCO中日本	NEXCO西日本	計
道路資産賃借料	17,798	15,782	16,687	50,267
法人税等	219	278	229	726
利益剰余金	207	363	287	857

(単位:億円、数値はH21.3までの累計)



以上

# 民営化3年半を振り返って

平成21年8月21日

西日本高速道路(株)



※ 本資料で、特に時期の記載がない数値は  
平成21年7月末現在で記載

## 【 目 次 】

1 . 民営化の目的・現況と経営上の取組み	
1 ) 民営化の目的	3
2 ) 民営化の現況	4
3 ) 経営上の取組み	7
2 . 事業運営の具体的な取組みと成果	
1 ) 「安全・安心・快適」な高速道路空間の提供	10
2 ) 高速ネットワークの効率的・早期の整備	21
3 ) 環境を重視した事業運営	24
4 ) 新たな事業分野へのチャレンジ	25
5 ) 着実な賃借料の支払い	27

# 1 . 民営化の目的・現況と経営上の取組み

- 1 ) 民営化の目的
- 2 ) 民営化の現況
- 3 ) 経営上の取組み

# 1) 民営化の目的 (平成15年12月22日 政府・与党申し合わせ)

## (1) 道路関係四公団合計で約40兆円(※)に上る有利子債務を確実に返済

⇒ 民営化後の3年半でNEXCO3社合計約5兆円の賃借料を機構に支払い  
さらに約726億円の法人税等を納付、約857億円の利益剰余金を積立 (※民営化時 NEXCO3社計で約29兆円) (P28)  
(うちNEXCO西日本分は賃借料1.7兆円、法人税等229億円、利益剰余金287億円)

## (2) 有料道路として整備すべき区間について、民間の経営上の判断を取り入れつつ、必要な道路を早期に、かつできるだけ少ない国民負担の下で建設

⇒ NEXCO3社合計で北関東道、圏央道、新名神道、東九州道等27区間約300kmを早期にコスト縮減のもと建設(うち西日本エリアでは5区間53kmを予定より早期に開通) (P21)

## (3) 民間のノウハウ発揮により、多様で弾力的な料金設定、サービスエリアを始めとする道路資産や関連情報を活用した多様なサービスを提供

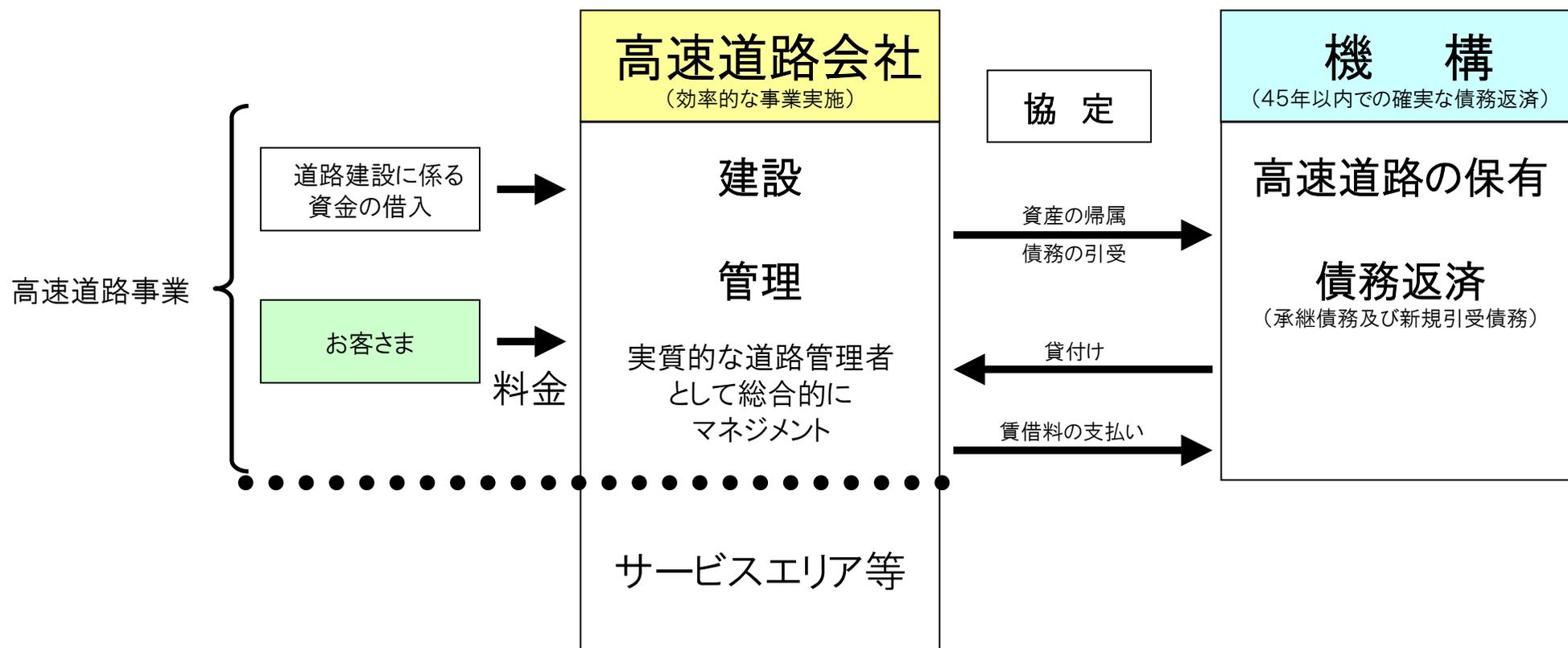
⇒ 各種ETC時間帯割引、企画割引等を実施 (P17)  
国の政策に基づいた料金割引(休日上限1000円料金等)の実施  
平成20年度の平均割引率は約26%(※) (※:NEXCO3社平均 社会実験含む)

⇒ SAPAのサービス向上(商業施設の新設、トイレ美化等) (P18)  
道路建設・管理の受託事業、海外事業、旅行事業、不動産賃貸事業等の実施

## 2) 民営化の現況 ①

### 民営化のスキーム

- NEXCOはお客さまからいただいた料金で高速道路の管理、機構への賃借料の支払いを実施。また、借入れた資金で新たな高速道路を建設し、資産・債務を機構に引き渡し。
- 機構は高速道路の資産・債務を保有し、高速道路会社からの賃借料で債務を返済。



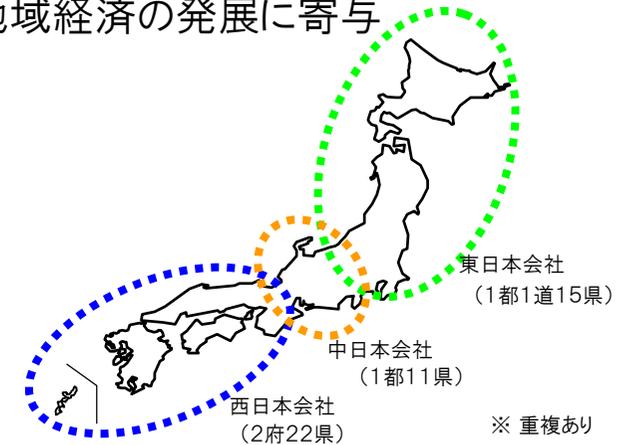
## 2) 民営化の現況 ②

### 地域分割に基づき地域に密着した事業、サービスを提供

NEXCO各社は地域に密着した事業を競争性のもと実施し、地域社会・地域経済の発展に寄与

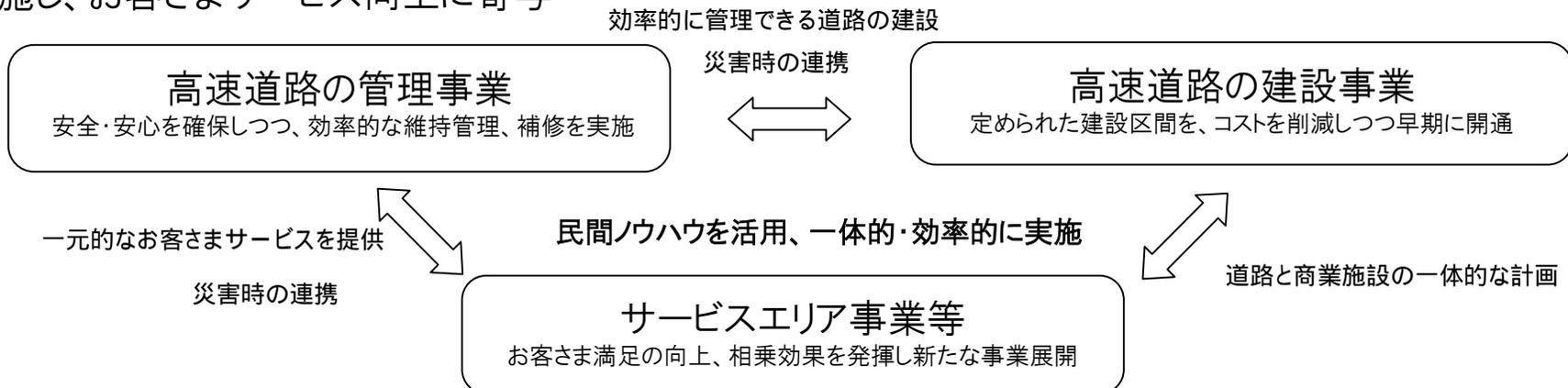
(H21.7末 現在)

	管理延長	建設延長	SAPA数
NEXCO東日本	3,490 km	370 km	303
NEXCO中日本	1,759 Km	420 km	183
NEXCO西日本	3,306 Km	228 km	289
合計	8,556 Km	1,017 km	775



### 3つの事業(高速道路の管理・建設・サービスエリア)を一体的、効率的に実施

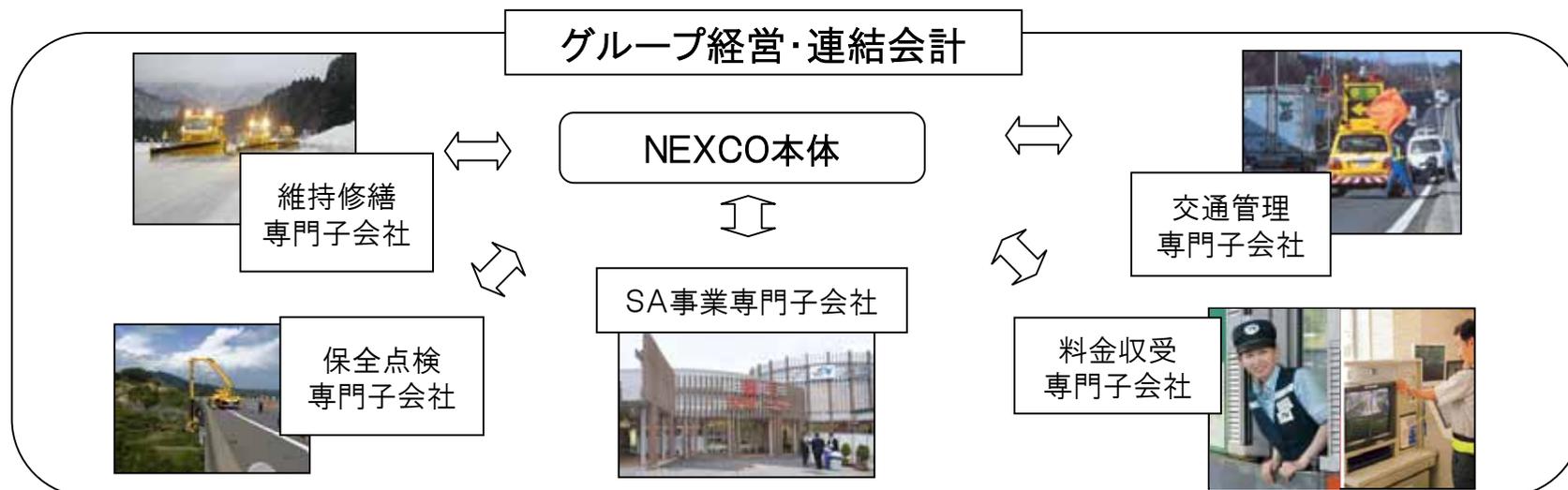
NEXCO各社は民間ノウハウの活用により、高速道路の管理・建設・サービスエリア事業等を一体的、効率的に実施し、お客さまサービス向上に寄与



## 2) 民営化の現況 ③

### グループ経営、連結会計で経営の効率性・透明性を向上

NEXCO各社は、道路維持管理等の基盤業務やサービスエリアの運営業務などをグループ化し、一体経営・連結会計を確立して、経営の効率性・透明性を向上。



【平成20年度連結決算状況】

単位：億円

	営業収益	賃借料	法人税等	当期純利益
NEXCO東日本グループ	8,730	4,975	60	76
NEXCO中日本グループ	7,917	4,390	51	80
NEXCO西日本グループ	8,067	4,685	44	58
合計	24,714	14,050	155	214

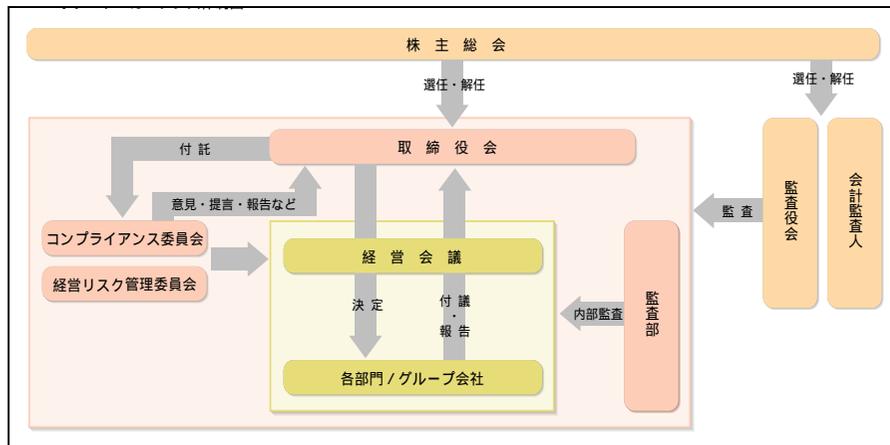
- 民営化に際し、従前の管理コストを3割削減し、機構との協定を締結。
- 民営化後も、積極的な新技術の採用、専門子会社との協働体制による効率化などの更なるコストの削減に努めている。

# 2) 経営上の取組み

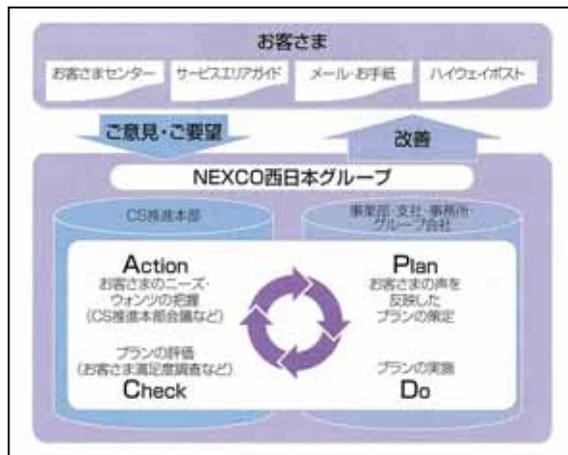
## 民間会社として相応しい経営手法の導入

民間会社として相応しい経営のための体制・仕組みを導入し、規律あるガバナンスの下、効率的で適正な運営を行っている。

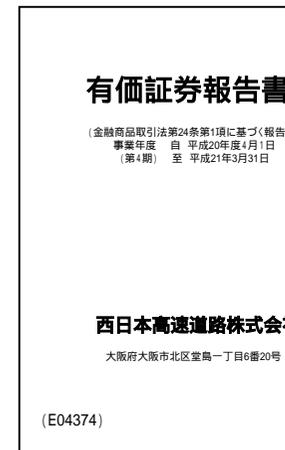
### ○ コーポレートガバナンス体制の確立



### ○ CS推進体制の整備



### ○ 企業会計の導入



平成21年3月期 決算情報

会社名 西日本高速道路株式会社 上場銘柄 東上場  
 URL http://www.n-express.co.jp/  
 代表者 代表取締役会長 石田 肇

1. 平成21年3月期の業績概況(平成20年4月1日～平成21年3月31日) (百万円未満を四捨五入)

指標	21年3月期	20年3月期	20年3月期	21年3月期	20年3月期	21年3月期	20年3月期
売上総額	87,719	84,279	9%	87,719	84,279	9%	87,719
営業利益	609,771	12.3	7,828	19.2	10,205	11.3	6,809
経常利益	820,214	19.5	9,889	49.0	11,823	40.2	7,808
当期純利益							

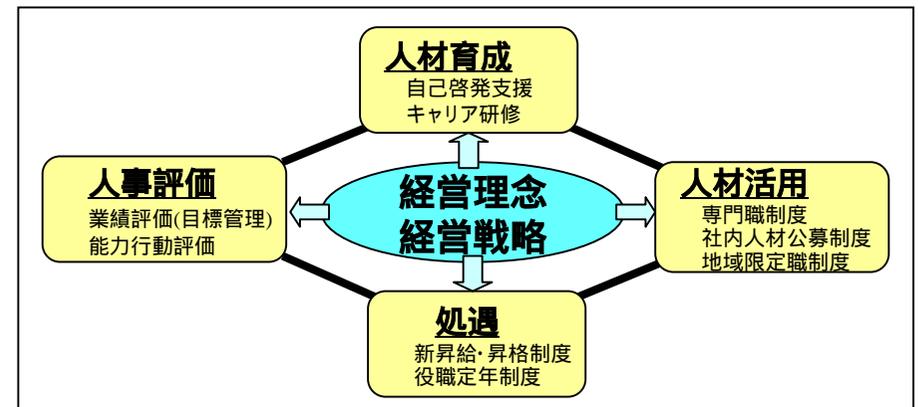
2. 平成21年3月期の業績細目(平成21年4月1日～平成21年3月31日) (百万円未満を四捨五入)

指標	21年3月期	20年3月期	20年3月期
売上総額	87,719	84,279	9%
営業利益	609,771	12.3	7,828
経常利益	820,214	19.5	9,889
当期純利益			

3. 平成21年3月期の業績細目(平成21年4月1日～平成21年3月31日) (百万円未満を四捨五入)

指標	21年3月期	20年3月期	20年3月期
売上総額	87,719	84,279	9%
営業利益	609,771	12.3	7,828
経常利益	820,214	19.5	9,889
当期純利益			

### ○ 新・人事制度の構築



## 経営における具体的な取り組み(中期経営計画の策定)

平成22年度までを経営基盤を確立する期間と位置づけ、中期経営計画を策定。グループ理念、経営ビジョン、行動憲章とともに経営方針を確立。



### 【経営方針】

企業の社会的責任(CSR)の遂行を、当グループの全ての活動における共通の目標とし、ステークホルダーの期待に応えます

#### (1) 社会的インフラとしての使命の達成と道路に関する新たな事業への展開

) 高速道路ネットワーク整備の早期かつ着実な推進

) 100%の安全・安心の提供を追求、環境の創造と地域との共生、次世代へ健全な道路を引き継ぎ

) 総合的な技術力とノウハウを活かした道路に関する新たな事業への展開により、地域の発展と暮らしや利便性の向上に貢献

#### (2) お客様満足の着実なステップアップ

高速道路の効率的な利用推進、わかりやすい料金への取り組み

SA・PAを『お客様満足施設』へ変革

#### (3) ステークホルダーへの還元(収益配分)

インセンティブと関連事業収益から安全・安心・サービス向上への還元

CSRの取り組み推進のため、CSR推進室を設置

#### (4) 環境への取り組み

#### (5) 社会貢献事業の取り組み

維持管理業務に従来従事していた会社と協同する社会貢献活動

SA・PAのテナントと協同する幅広い社会貢献活動

グループの経営基盤及び執行体制を強化するとともに、これを支えるヒトを創造するため人事制度を改革します

(1) 自由と公正な活動のもと、健全かつ信頼される経営体制の確立等により、経営基盤の強化を図ります。

(2) 経営資源の適切な配分を行います。また、常に機動的かつ効率的な執行体制をめざし、管理事務所・工事事務所等の再編を推進します。

(3) 公平かつ“やれば報われる”人事制度の確立により、社員のモチベーション向上と人材育成を図ります。

## 2 . 事業運営の具体的な取組みと成果

- 1 ) 「安全・安心・快適」な高速道路空間の提供
- 2 ) 高速ネットワークの効率的・早期の整備
- 3 ) 環境を重視した事業運営
- 4 ) 新たな事業分野へのチャレンジ
- 5 ) 着実な賃借料の支払い

# 1)「安全・安心・快適」な高速道路空間の提供①

安全・安心・快適な高速道路を維持するため24時間365日迅速かつ適切に業務を実施

## 保全点検業務

路面、橋梁、交通安全施設等を点検し、道路の異常を早期に発見する



橋梁たたき点検



情報板の点検

## 維持修繕業務

清掃、補修、事故復旧等を行い、道路を安全で良好な状態に保つ



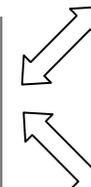
スノーバーによる路面清掃



ポットホールの緊急措置



安全・安心・快適な高速道路空間を提供するため  
実質的な道路管理者として高速道路を維持管理  
する全ての業務を総合的にマネジメント



## 交通管理業務

事故処理支援、落下物除去、情報提供等により、円滑な交通を確保する



交通管理隊



道路管制センター

## 料金收受業務

料金所を安全に気持ちよく通っていただき、通行料金を正確に收受する



有人レーンでの両手收受



車両監視盤の操作

# 1)「安全・安心・快適」な高速道路空間の提供②

緊急時にもNEXCO西日本・パートナー会社(専門子会社)一体で機動的な危機管理対応を実施

地震や異常気象・豪雪など、すべての防災事象に迅速に対応できるよう、十分な事前対策を準備

現場事務所を再編・統合し、人的資源の有効活用を図るとともに、パートナー会社とのシナジー効果を最大限に発揮し、3S管理を基本とした効果的な体制を構築

3S = speed(迅速に)、simple(指揮系統を単純に)、self-confidence(自信を持って自主的に)

## 【災害時における迅速な対応】

平成21年7月「中国・九州北部豪雨」においても、NEXCO西日本グループが一体となり、早期復旧に努めました。



中国道 山口ICの被災状況



被災後4日で応急復旧を完了



防府IC～山口ICの無料通行措置で、防府市⇄山口市間の所要時間を短縮  
(国道2・9号経由:約85分⇒高速利用:約35分)

## 【危機管理対応力の強化】

現場事務所を再編し統合することにより、災害発生時等において、スケールメリットを活かした、より機動的な危機管理対応を図っています。



現場事務所再編前(山口(高)、徳山(管))



現場事務所再編後(山口(高))

- NEXCOとパートナー会社(メンテ保全センター)の連携を強化、使命を共有し、信頼関係により事業を実施
- パートナー会社の自主的な対応により、迅速性等が向上
- 大・中規模災害時においても、保有する人材・資機材を活用することにより、早期復旧に向けた体制構築を実現

# 1)「安全・安心・快適」な高速道路空間の提供③

お客さまの「安全・安心」を確保するための投資を積極的に推進

## 1. 交通安全対策の推進

- 降雨時の安全走行のため、水はねの少ない高機能舗装に改良(高機能舗装化率:平成20年度末67%)。
- 高齢者ドライバーの増加に伴い、標識文字の大型化を推進。
- 逆走防止プロジェクトとして、日産自動車との共同研究によるカーナビ警告装置等を開発中。  
(死傷事故率は、平成18年度10.7から平成19年度9.4、平成20年度9.0(件/億台km)と確実に減少)



高機能舗装



文字サイズ2割拡大、超高輝度反射シート採用



《逆走する車両を検知》



《カーナビ上で警告》

「逆走」表示

## 2. 信頼性の向上(耐震補強工事)

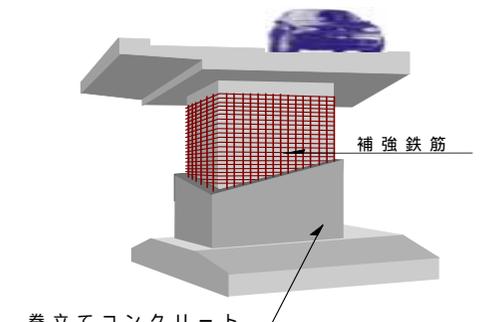
- 地震に強い道路を目指し、橋梁の補強を実施中。

(事業費)

民営化後3年間で約112億円を投資  
平成20年度末で約90%の補強を完了



橋梁の耐震補強工事



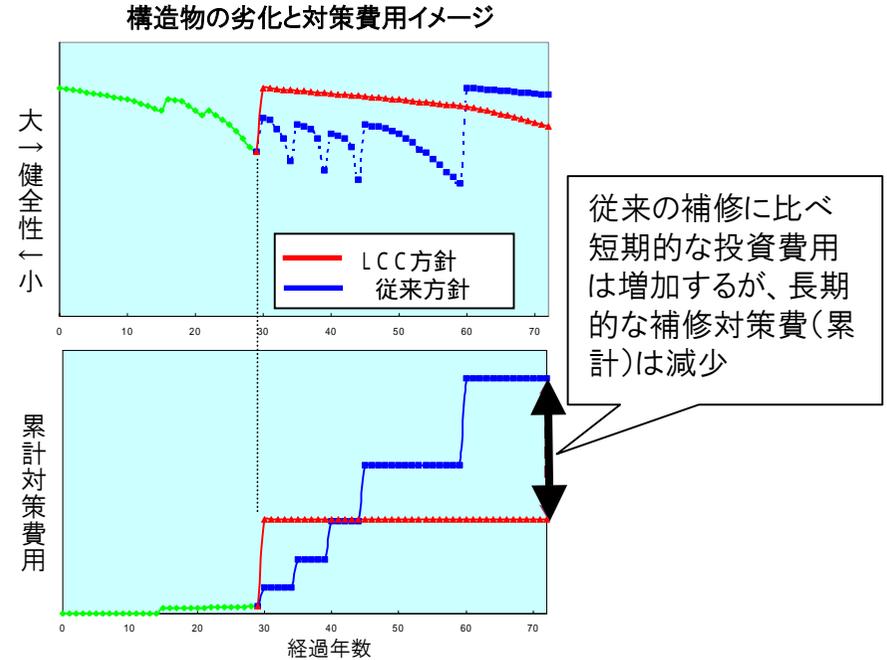
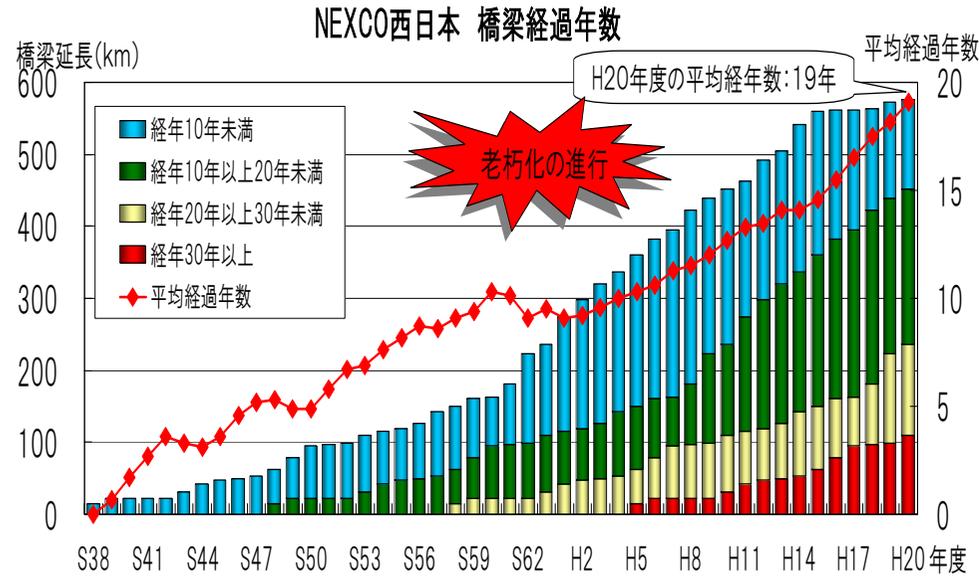
巻立てコンクリート

補強工法の例

# 1)「安全・安心・快適」な高速道路空間の提供④

## 3. 老朽化対策

■ 進行する橋梁の老朽化に対し、コンクリートはく落防止の緊急的な対策とともに、ライフサイクルコスト(LCC)最小化の観点から抜本的な高耐久化対策を推進。



⇒ 緊急的にコンクリートはく落対策が必要な箇所は平成21年度で概成 (平成21年度計画23億円、累計対策面積:約45万 $m^2$ (全体の39%))

重交通路線・老朽化路線の床版損傷



《床版下面損傷》



《床版上面損傷》



はく落防止対策の施工例



《はく落防止ネット》

高耐久抜本対策の施工例



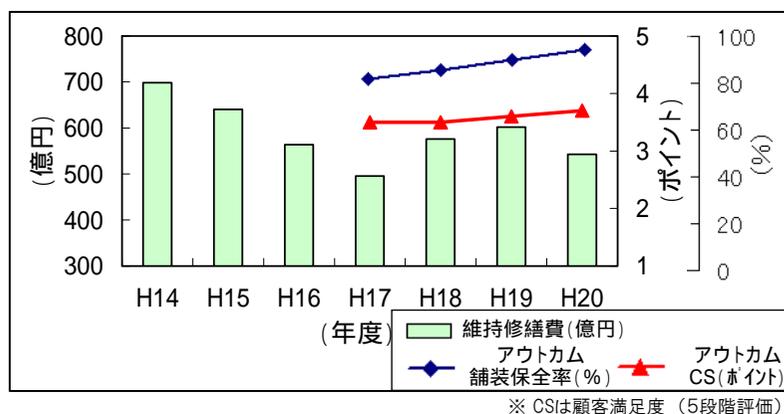
《PC床板取替》

# 1)「安全・安心・快適」な高速道路空間の提供⑤

## 「維持管理コストの削減」と「サービスレベルの確保」

- 維持管理業務実施体制の再構築、技術開発による効率化、工事発注方法見直し等により、3割の維持管理コストを削減(平成14年度比)。
- 高速道路の安全性や利便性をアウトカム指標として明示し、その達成によりサービスレベルを確保。

【維持管理コストとアウトカム指標の推移】



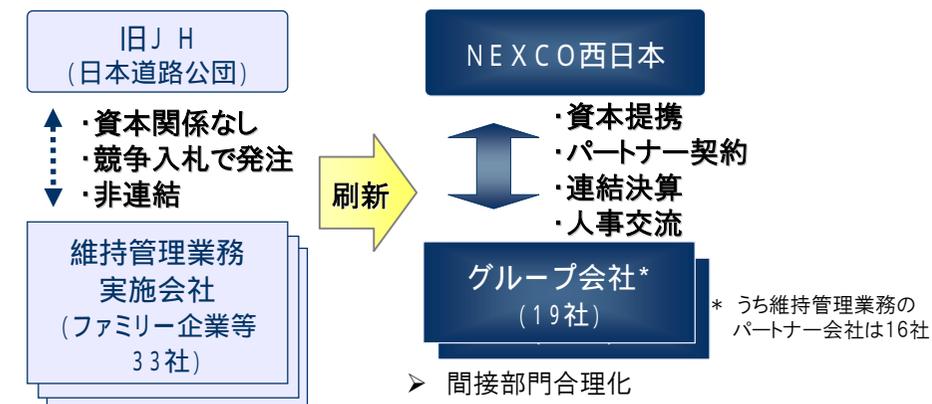
【技術開発による効率化】

適切な管理レベルの設定、トータルコスト最小化マネジメント手法、新技術の開発などにより、効率化・高度化を推進



赤外線カメラを用いた点検

【維持管理業務実施体制の再構築】



- ✓ 実施企業の変更を前提とした業務実施体制
- ✓ コストの不透明性

- 間接部門合理化
- 連結決算によるコストの透明化
- 協働体制による業務の効率化・高度化
- NEXCO西日本⇄パートナー会社の人事交流(116人)

○参考【高速道路関連社会貢献協議会】

旧JHの維持管理業務実施会社(ファミリー企業)は「高速道路関連社会貢献協議会」を設立、約200億円の資金を拠出して高速道路利用者に還元を進めている。

〔主な内容〕

- ・AED(心臓まひ等の救命装置)配置
- ・非常用救援物資備蓄
- ・オストメイト(人工肛門等保有者)対応トイレの整備

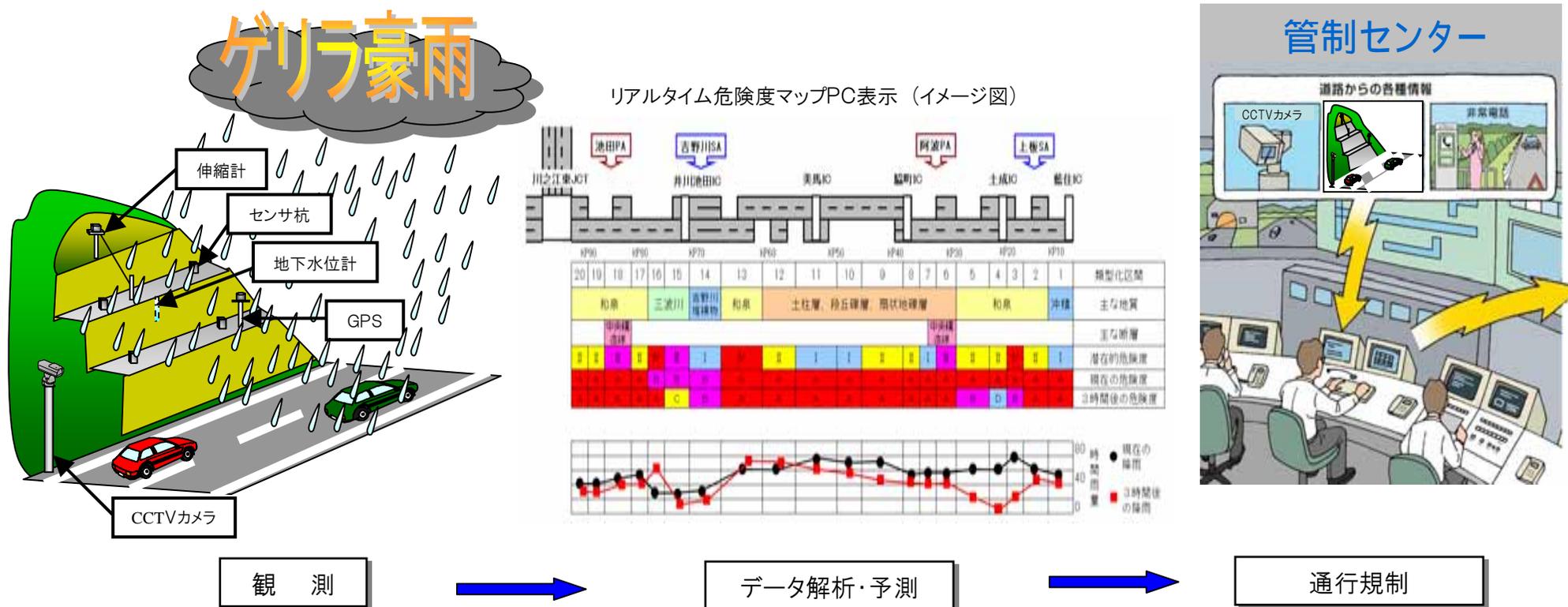
※いずれもSAPAに設置

# 1)「安全・安心・快適」な高速道路空間の提供⑥

## 地域の特성에 応じた技術開発

### 【のり面予防保全技術の開発】

西日本特有の台風、集中豪雨、近年ではゲリラ豪雨等による災害について、被害を未然に防止するために、体制の構築や交通規制など必要な処置を迅速に行うことができるよう、動態監視データやジャストポイントでの雨量予測、蓄積された地質データから災害発生の予測を行うための技術開発を推進



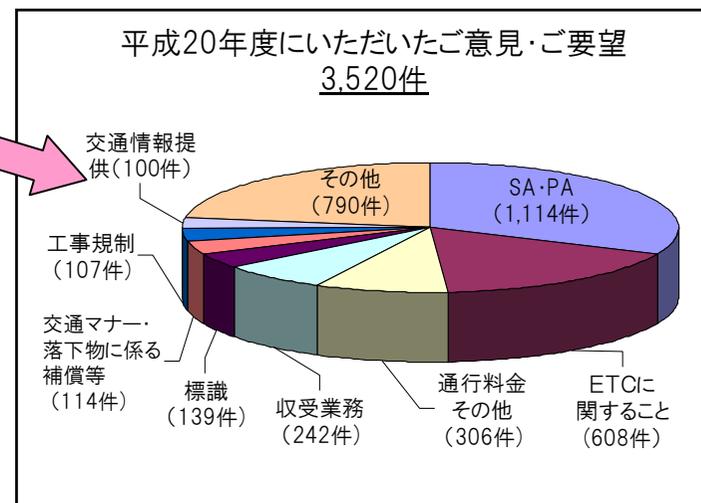
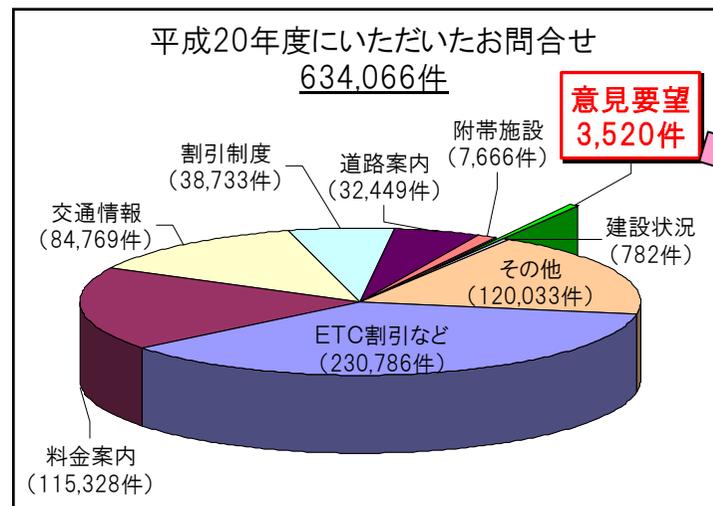
# 1)「安全・安心・快適」な高速道路空間の提供⑦

お客さまの声を真摯に受け止め、的確に事業へ反映

お客さまからの電話によるお問い合わせ、ご意見・ご要望に24時間365日フリーコール(通話料無料)で対応する「お客さまセンター」を開設。お客さまのニーズを的確に把握し、社長を本部長とするCS推進本部で検討、的確に事業へ反映。



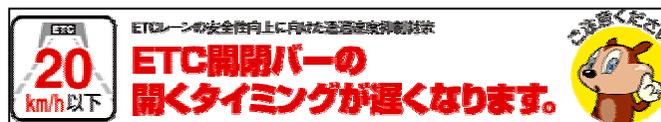
お客さまセンター



CS推進本部会議

## 【改善例】

- トイレのリニューアル・・・P18
- 携帯電話での交通情報・・・P18
- ドッグラン、シャワーステーション・・・P19
- ETC安全走行・・・カード未挿入お知らせアンテナ設置等



ETCカード未挿入お知らせアンテナ  
この下を通ると、ETCカードが挿入されていない時はETC車載器から音が出る場合があります。



# 1)「安全・安心・快適」な高速道路空間の提供⑧

## 地域と連携したサービス

### 【周遊型料金割引】

大手旅行代理店(JTB)とのタイアップによる新たなドライブ旅行商品を実現。

- ・四国周遊往復割引(本四と提携) H20.4~6
- ・四国内周遊割引(西日本初の飛行機・宿泊パック販売) H20.10~12
- ・ぶらり中国道・山陰路フリーパス H20.9~12
- ・大分お得! ETC周遊フリーパス H20.9~12

### 【ウェルカムゲート】

一般道路側に通路を設置し、近隣地域にエリア商業施設を開放。地方部においてはエリア店舗が地域の住民生活をサポート。(50箇所)



(山陽自動車道 小谷SA上り)

### 【災害対応型自販機】

無人PAに災害対応型自動販売機を設置。災害時、無線操作等で販売機内の飲料を無料で提供。また、電光掲示板に災害状況を配信。(89箇所)



(高知自動車道 土佐PA上り)



### 【やさしい村】

地元で収穫した取れたて野菜をSAPAで販売。(6箇所)



(名神高速道路 桂川PA下り)

# 1)「安全・安心・快適」な高速道路空間の提供⑨

## 多様なサービスの提供

### 【ITを活用した情報提供サービス】

高速道路の交通情報をインターネットを活用し、携帯電話・PCへ24時間リアルタイムに提供。

さらに、西日本エリアでは『通行止解除の目安』として通行止作業状況を提供。視覚的に渋滞状況等を確認できる映像も配信。



H21.8.16現在、累計利用者数 195万人  
(最大5.6万人/日)

### 【快適なトイレ空間・ユニバーサルデザインへの取り組み】

4C+1E『Clear(明るさ)・Clean(清潔)・Comfortable(快適)・Charming(魅力的)+Ecology(環境への負荷軽減)』のコンセプトのもと、デパートのトイレに見習ったりリニューアルを実施(33箇所(平成21年8月20日現在))。



快適なトイレ空間  
(山陽自動車道 佐波川SA下り)



暖房・洗浄便座とオストメイト対応トイレ  
(山陽自動車道 龍野西SA下り)

# 1)「安全・安心・快適」な高速道路空間の提供⑩

## 多様なサービスの提供

### 【エリア施設のリニューアル】

SAPAを最低限のサービス提供からお客さまが満足する施設へ転換していくため、エリア店舗リニューアルを実施。(21箇所)

【改良前】



【改良後】



(九州自動車道 別府湾SA)

### 【多様なニーズへの対応】

お客さまの不便の解消のため、24時間営業で利便性の高いコンビニエンスストア(33箇所(うちメディカルコーナー等併設30箇所))やカフェ(9箇所)等専門店を導入。

長距離ドライバーのためのシャワーステーション※(3箇所)やペットのためのドッグラン(24箇所)を設置。

※ 疲労回復と快適な運転のため、シャワー施設とともにコインランドリー、無料マッサージチェアを備えた施設



ハイウェイコンビニ  
(名神高速道路 黒丸PA上り)



ドッグラン  
(山陽自動車道 三木SA下り)



シャワーステーション  
(九州自動車道 吉志PA下り)

# 1) 「安全・安心・快適」な高速道路空間の提供①

## ○ 関連事業収益を活用し、お客さまや地域社会に貢献

### 【道路施設の改良】

洗浄便座等サービス機能向上のための工事にサービスエリア事業等関連事業収益を活用(累計約10億円;道路事業への還元)



暖房・洗浄便座  
(山陽自動車道 龍野西SA下り)



パウダーコーナー  
(中国自動車道 西宮名塩SA下り)

### 【お客様感謝DAY】

高速道路をご利用いただいているお客様への感謝として、毎月第一日曜はレストラン・ショッピングコーナーの商品を20%割引※にて提供。

※ネクスコグループが費用を負担し、お客さまに約11億円分還元(平成20年度)。



(お客様感謝DAY チラシ)



(九州自動車道 古賀SA上り)

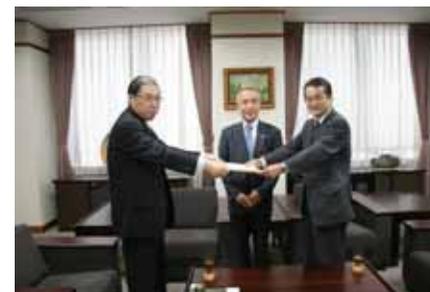
### 【西日本高速道路エリア・パートナーズ倶楽部】

SAPAテナント(55社)とともに、「西日本を元気にしよう」、「世界の困っている人に手を差し伸べよう」のスローガンのもと、年間約1.8億円を拠出し、社会貢献・地域活性化支援を実施。(平成20年度)

#### [事例]

- 産科婦人科学生・助産師支援
- 車いす・福祉車両の寄贈、盲導犬の育成支援
- 海外での医療活動等への支援 ※ など

※ アフリカのスーダン共和国でマラリア等の熱帯性感染症患者への巡回診療活動をしているNPO法人「ロシナンテス」への資金援助



(日本産婦人科医会への寄附)



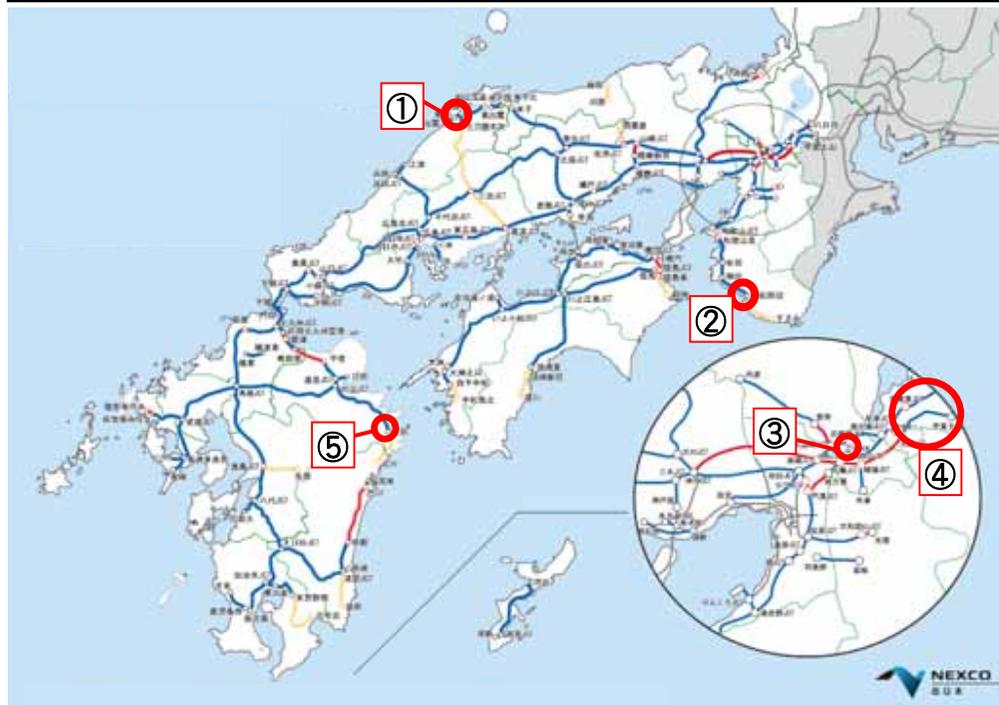
(海外医療活動(ロシナンテス))  
撮影:内藤順司

## 2) 高速ネットワークの効率的・早期の整備 ①

高速道路ネットワークの整備を民営化後の新規開通は約3年半で5区間を完了  
さらに当初予定より早期に開通を実現（地域社会や地域経済等の活性化に寄与）

### 【開通実績】

道路名	区間	延長 (km)	開通実績	短縮日数
1 山陰自動車道	宍道JCT～斐川IC	5	H18.11.25	1ヶ月
2 阪和自動車道	みなべIC～南紀田辺IC	6	H19.11.11	4.5ヶ月
3 第二京阪道路	阪神高速接続部～巨椋池IC	1	H20.1.19	0ヶ月
4 新名神高速道路	甲賀土山IC～大津（草津田上IC）	29	H20.2.23	13ヶ月
5 東九州自動車道	津久見IC～佐伯IC	13	H20.6.28	3ヶ月
計		53		



### 【早期開通割引の実施】

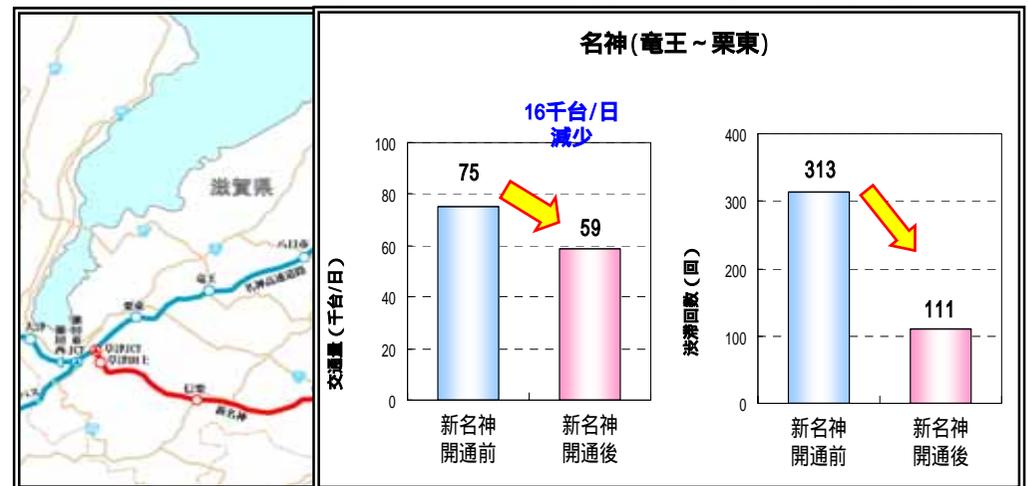
早期開通による収入増を活用し、  
地元協力への感謝及び利用促進  
のため早期開通割引を実施

〔内容〕開通区間について概ね50%割引  
 ・阪和道 みなべ～南紀田辺(H20.3.31まで)  
 ・新名神 亀山～草津田上(H20.6.30まで)  
 ・東九州道 津久見～佐伯(H20.10.25まで)



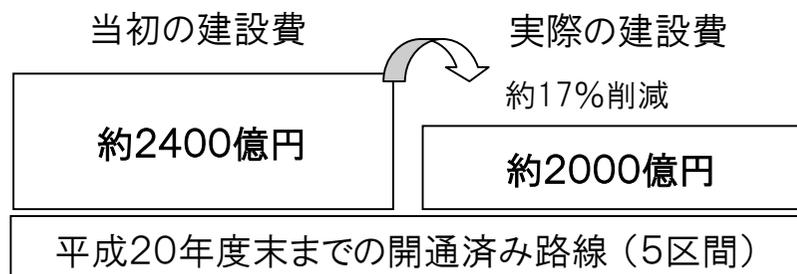
### 【整備効果:新名神】

名神(竜王～栗東)のボトルネック箇所の渋滞が大幅に緩和



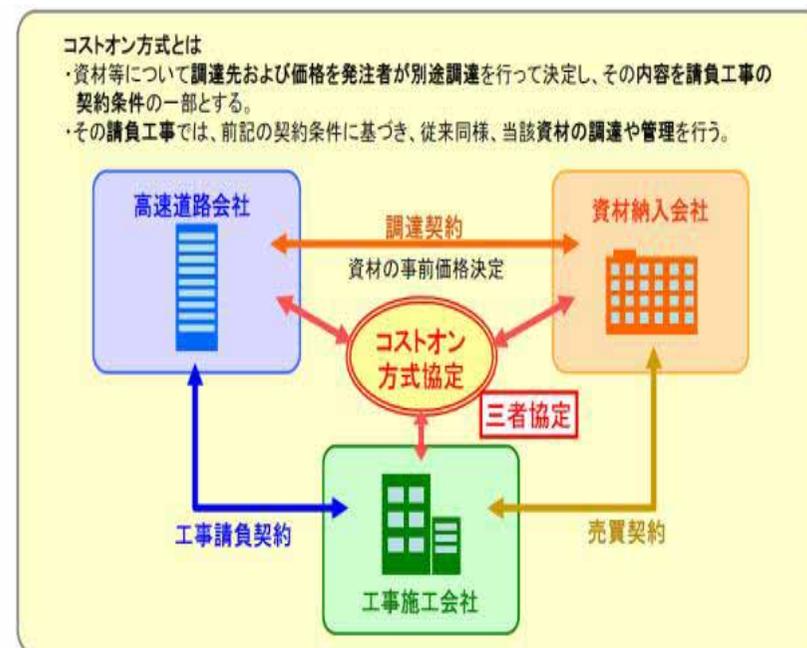
## 2) 高速ネットワークの効率的・早期の整備 ②

高速道路の建設費は、当初協定に対し17%の削減を達成

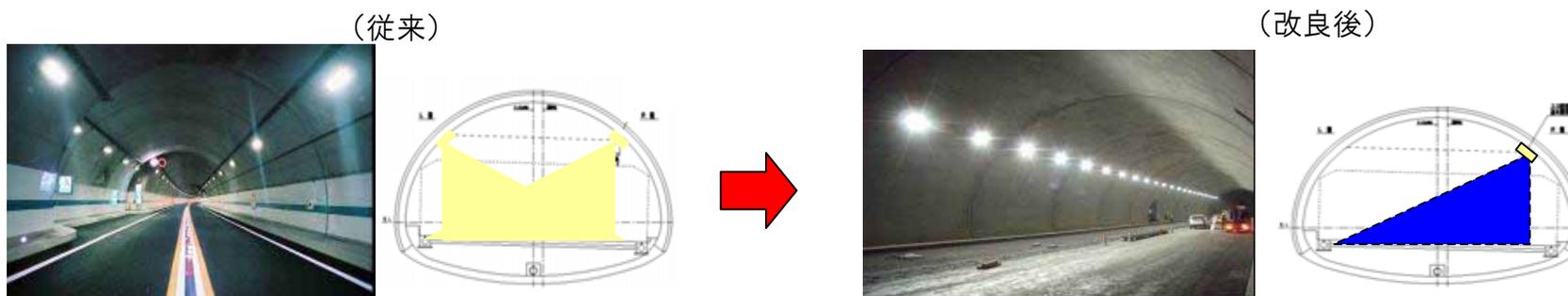


【例】： 防護柵の材料調達にコストオン方式を採用し費用を削減（新名神 甲賀土山～大津間）

	通常方式(舗装工事に含む)の場合	コストオン方式の場合(今回実施)	削減額
積算額	89,500 千円	—	—
落札率	95.5%(舗装)	—	—
材料調達価格	85,472 千円	78,486 千円	6,985 千円



【例】：大断面TNの基本照明に高効率なメタルハライドランプを採用、片側のみ設置とし照明基数を削減。



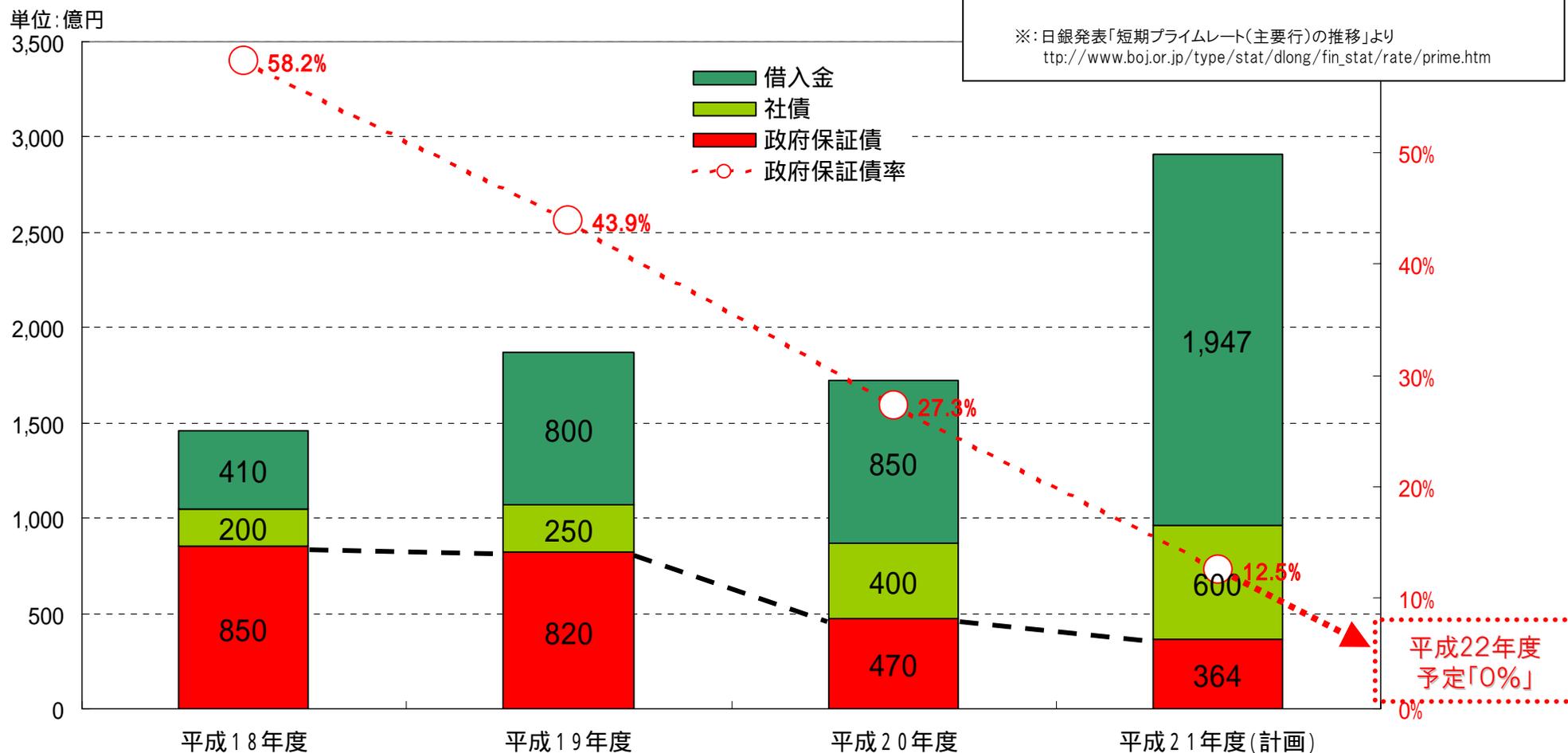
## 2) 高速ネットワークの効率的・早期の整備 ③

### 民営化に伴う資金の自主調達、格付け確保の努力(国債並み)

民営化以降、着実かつ安定的に資金調達を実施  
 (社債の格付けも国債並み)  
 政府保証債は段階的に低減し、平成22年度以降は「0」とする予定

【当社の社債概要】 (H21.7現在)  
 《格付》 R&I : AAA、Moody's : Aa2  
 《金利》 0.7%(長期プライムレート : 1.9% (※))

※:日銀発表「短期プライムレート(主要行)の推移」より  
[http://www.boj.or.jp/type/stat/dlong/fin\\_stat/rate/prime.htm](http://www.boj.or.jp/type/stat/dlong/fin_stat/rate/prime.htm)



# 3) 環境を重視した事業運営

環境への取組みを持続的かつ効果的に推進

## 【ISO14001の認証取得】

継続的に環境への対応を行うためのマネジメントシステムを構築。高速道路会社で初めて、国際規格ISO14001の認証を取得(本社組織)。



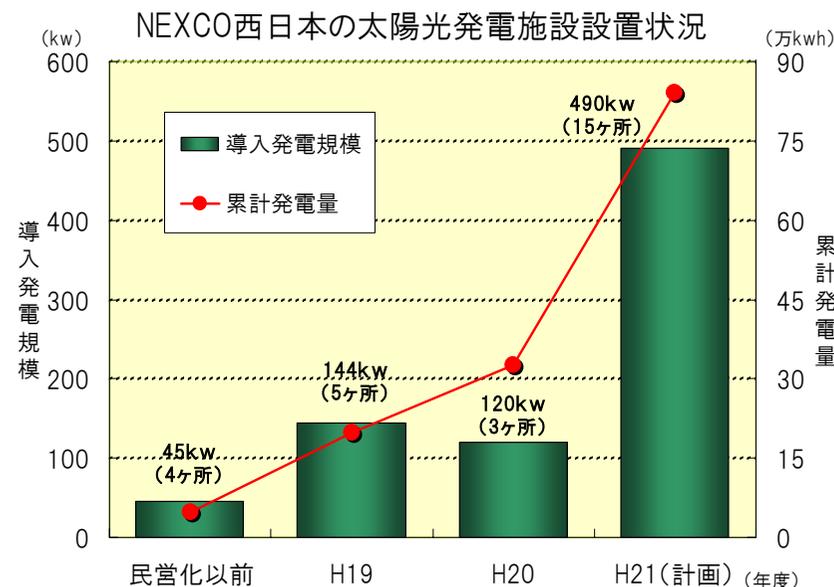
(ISO認証マーク↑)



(ISO登録証書)→

## 【太陽光発電の導入】

低炭素社会(CO2削減)の実現に寄与する太陽光発電について、民営化後平成21年度末までに23箇所(754kW)設置予定。



# 4) 新たな事業分野へのチャレンジ ①

## 当社の経験・技術力を活かした取り組み

### 【自治体からの管理受託】

NEXCO西日本の特殊ノウハウにより道路設備の効率的な運用や質の高いメンテナンスを提供。

トンネル水噴霧設備点検業務

：名古屋高速道路公社(東山トンネル;H20.3)



ETC保守業務

：京都府道路公社(京都縦貫自動車道;H20.8~H21.3)他



グループ内の経験、技術力を用いて、道路構造物の点検(応急措置、判定含む)を行う、補修計画を提案。

橋梁点検業務

- 広島市
- 勝央町
- 北九州市道路公社
- 福岡県 他



## 4) 新たな事業分野へのチャレンジ ②

### 海外事業への取り組み

NEXCO技術力の海外への活用を図りながら、国際貢献を目指し、海外での事業展開に着手。

#### 【海外コンサルティング事業】

日本の高速道路建設・維持管理経験を活かし、ベトナム等、東南アジアにおける海外コンサルティング業務に参画。(H19.3～)

#### 【アルジェリア高速道路への技術支援】

本邦企業が建設中のアルジェリア高速道路プロジェクトに社員を派遣、品質管理指導や現場施工指導などの技術支援を実施中(H21.3～)。

#### 【米国での維持管理業務への外販事業】

赤外線カメラ点検技術等 NEXCO西日本グループの最新技術を用いて、米国の維持管理技術の業務参入を計画中。

#### 【アフリカでの社会貢献】

サブサハラ地域の継続的な発展のため、道路技術者の研修プロジェクトを計画中。



アルジェリア高速道路プロジェクト



エチオピア共和国の道路状況

### 新たな事業分野へのチャレンジ

#### 【旅行事業】

高速道路を利用し旅行されるお客様をターゲットとし、インターネット宿泊予約サイト「みち旅」を開設し、宿泊予約の受付等を開始。(H21.3)



インターネット宿泊予約サイト「みち旅」ロゴ

#### 【不動産賃貸事業】

高速道路からそのままご利用いただける「ハイウェイホテル」(H20.4)、兵庫県西宮市内に「学生専用マンション」(H21.4)の運営を開始。



ハイウェイホテル  
(九州自動車 壇ノ浦PA隣接地)

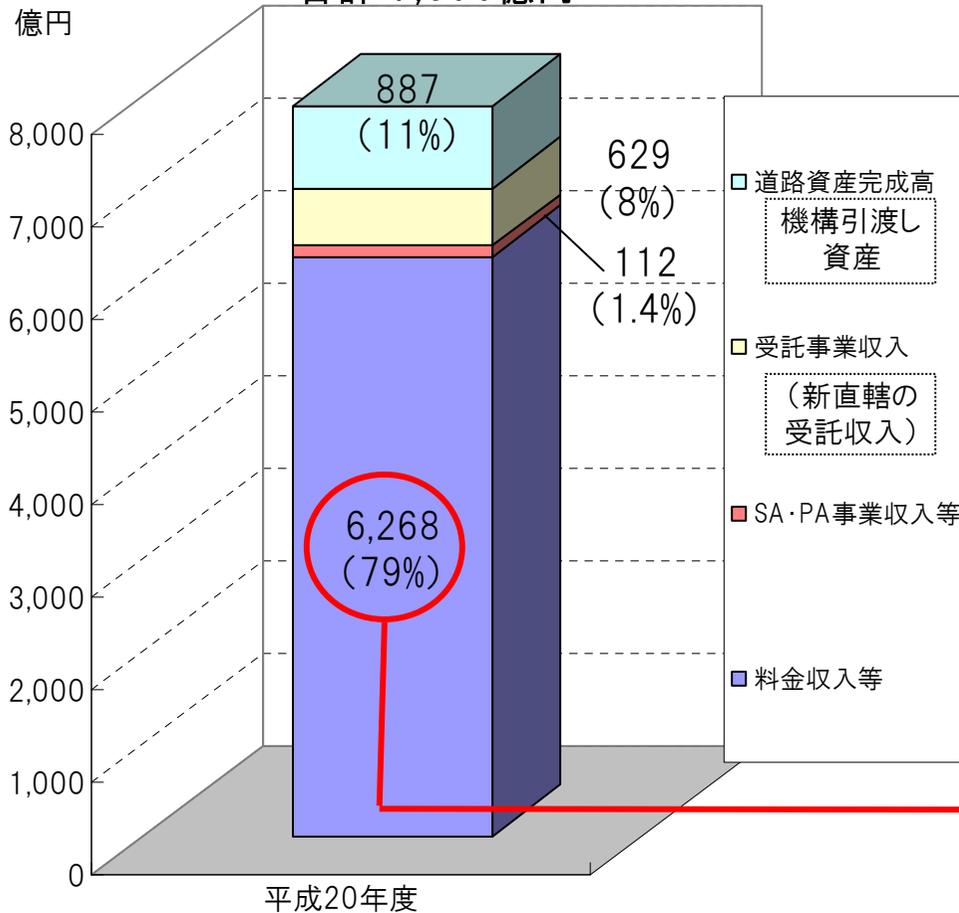
# 5) 着実な賃借料の支払い ①

## 当社の収益と費用

### 【全体収益（単体）】

○収益の8割が高速道路の料金収入

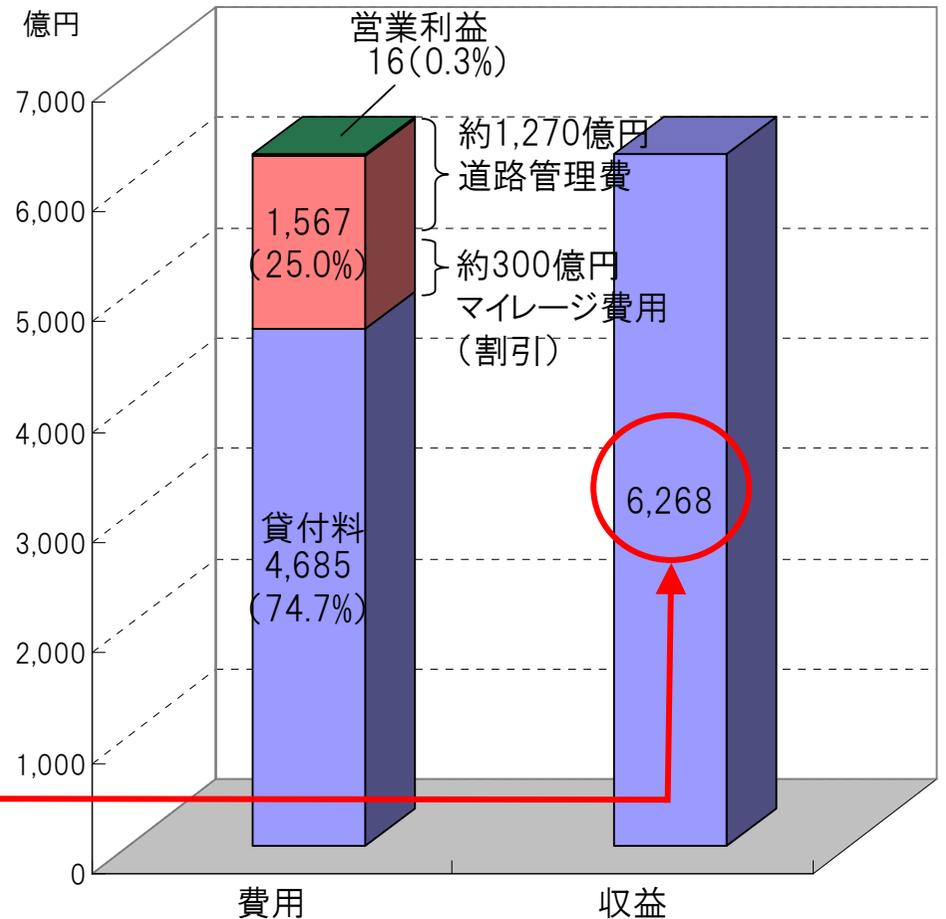
合計 7,896億円



### 【高速道路管理事業の費用構成】

○料金収入の約3/4を賃借料として機構に支払い

○残る約1/4で適正な道路管理を実施



## 5) 着実な賃借料の支払い ②

### 着実な賃借料・納税等の支払いを実施

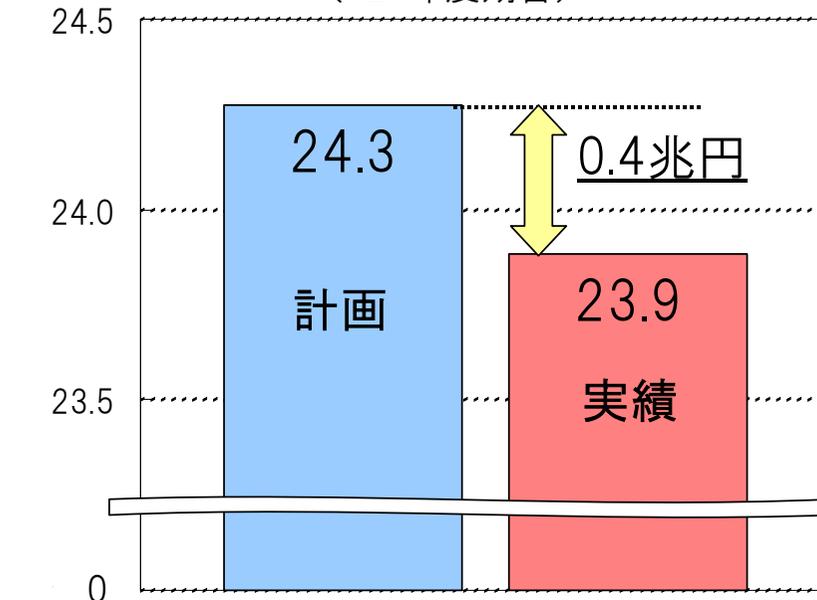
- 民営化後の3年半でNEXCO3社合計で約5兆円の賃借料を機構に支払い。
- さらに726億円の法人税等を納付、株主(国)への配当原資となる利益剰余金を約857億円積立。  
(民営化直前は旧JHへ年間3000億円の国費※を投入。※金利負担低減のための出資金)

民営化後3年半の経営状況

	NEXCO東日本	NEXCO中日本	NEXCO西日本	計
道路資産賃借料	17,798	15,782	16,687	50,267
法人税等	219	278	229	726
利益剰余金	207	363	287	857

(単位:億円、数値は平成21年3月末までの累計)

保有・債務返済機構における債務残高  
(兆円)  
(H21年度期首)

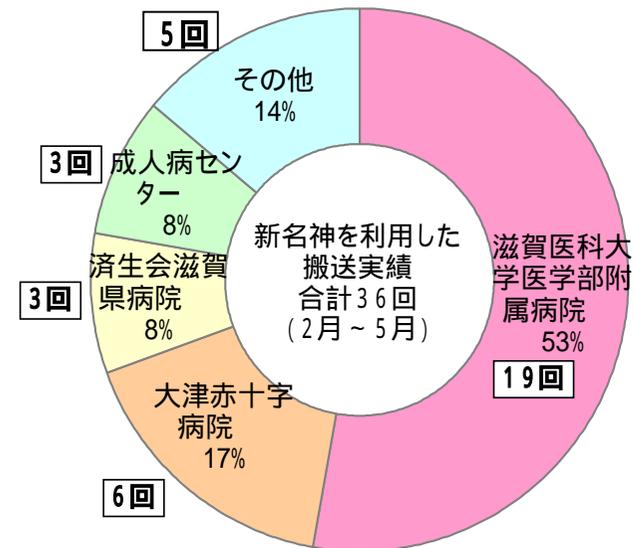


# 救急医療への寄与 名神高速道路(草津田上~甲賀土山)開通効果

甲賀地域から大津市(滋賀医科大学病院)までの搬送が **約20分短縮**  
 新名神高速道路の利用により、甲賀地域から大津市等への医療機関間の搬送時間が大幅に短縮され、地域の救急医療体制の支援に貢献していることが確認されました。

◆公立甲賀病院～第3次医療施設滋賀医科大学医学部附属病院への搬送所要時間の比較

◆公立甲賀病院～第3次医療施設滋賀医科大学医学部附属病院への搬送所要時間の比較



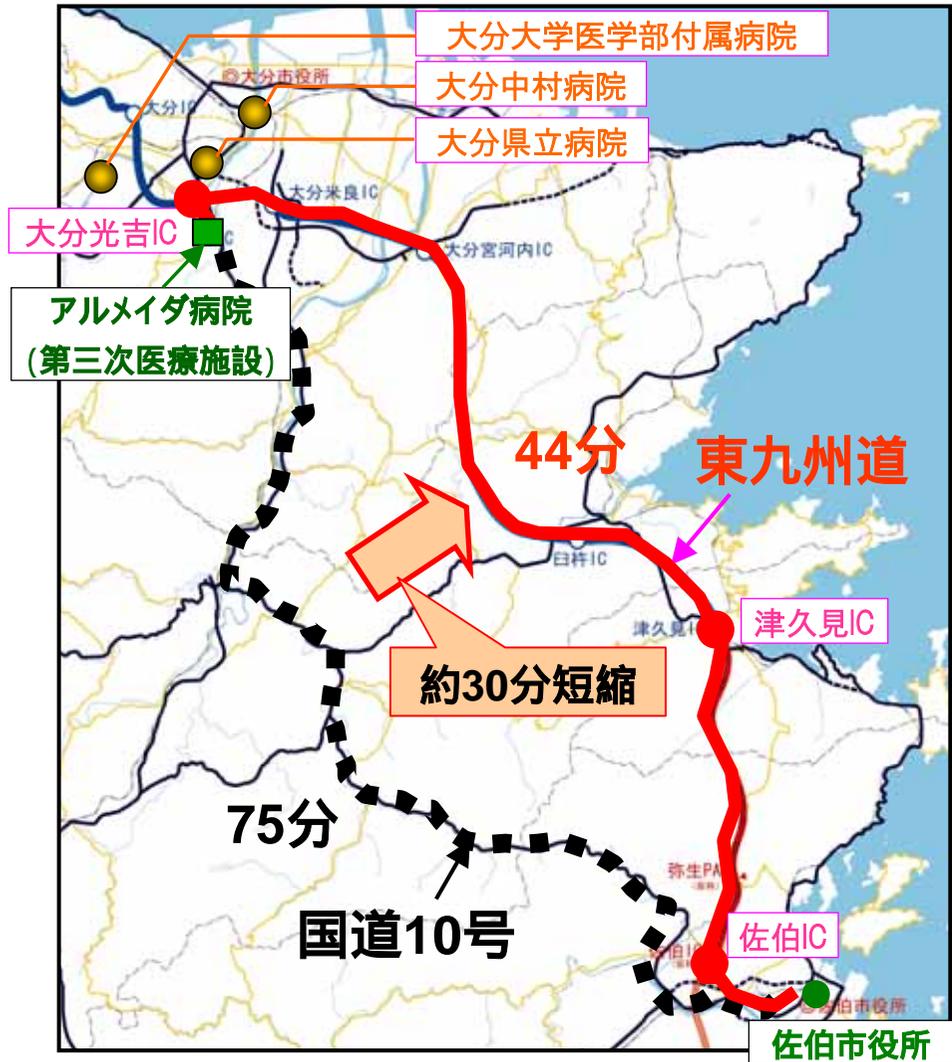
※第三次医療施設

※所要時間は道路時刻表および規制速度に基づき算出。  
 ※上図は、新名神を利用した搬送実績(甲賀広域行政組合消防本部、2~5月)が最も多かった発着地を例にとり所要時間比較を行なったもの。

・甲賀地域から救急重篤患者の滋賀医科大学医学部附属病院への**転院搬送においては、搬送時間がかなり短くなっただけでなく、振動や加減速が少なくなったため、患者への負担も小さくなっています。**  
 (甲賀広域行政組合消防本部)

# 救急医療への寄与 東九州自動車道(津久見～佐伯) 開通効果

佐伯市内から大分市(アルメイダ病院:約50km)までの搬送が **約30分短縮**  
 東九州自動車道(津久見～佐伯)の開通、及び大分光吉ICのフル化により、大分県南地域から大分市内にある第3次医療施設(アルメイダ病院)までの時間が、国道10号利用と比較し、大幅に時間短縮(約30分)され、地域の救急医療体制の支援に貢献していることが確認されました。



## 一般道路利用(国道10号)

距離(km)	佐伯市役所	5.7	佐伯市217交点	47.5	アルメイダ病院	約50km
時間(分)	佐伯市役所	10	佐伯市217交点	65	アルメイダ病院	約75分

## 高速道路利用

距離(km)	佐伯市役所	2.8	津久見佐伯線交点	1.8	佐伯IC	34.0	大分宮河内IC	9.0	大分光吉IC	1.8	アルメイダ病院	約50km
時間(分)	佐伯市役所	3	津久見佐伯線交点	2	佐伯IC	29	大分宮河内IC	7	大分光吉IC	2	アルメイダ病院	約44分

## 佐伯市消防署ヒアリング

佐伯市消防署では、開通後1年間で100件の管外搬送をおこなっており、その全てにおいて東九州道を利用。

《佐伯市消防署 救急隊員の声》  
 以前はほとんど国道10号を利用した搬送でしたが、現在では全て東九州道を利用した搬送になっています。一般道に比べカーブも少なく舗装路面の状況も良いので、車両の揺れも少なくなり患者さんへの負担軽減に繋がっていると感じています。